

第1回「小田原市地域包括ケア推進事業」検証委員会議事録

日 時：平成22年10月25日（月）

午後2時～3時30分

場 所：4階 第3委員会室

出席委員 谷口政隆委員、島津淳委員、時田純委員、木村貞雄委員、岩崎臣男委員、福祉健康部長、福祉健康部次長、（欠席：小澤優樹委員、下澤禮二委員）

事務局 高齢介護課長、高齢介護課課長補佐、高齢介護課高齢社会担当主査、高齢介護課主査

オブザーバー 小田原福祉会 施設長 佐野光子、事務長 我妻秀明

座 長 谷口政隆委員

【議事】

議題1 座長の選出について

事務局より説明

（説明内容）

- ・小田原市地域包括ケア推進事業検証委員会設置要綱をもとに、座長の選出について説明。

議題1についての意見

（意見）時田委員

- ・谷口委員が適任である。

※谷口委員で賛同され、座長に選出された。

議題2 小田原市の高齢者福祉の現況について

事務局より説明

（説明内容）

- ・資料1をもとに「議題2 小田原市の高齢者福祉の現況について」を説明。

議題2についての質疑応答

（質問）谷口座長

- ・「4 介護保険料」について、所得段階を8段階にしている自治体は多いのか。
- ・高齢化率が高い割には、介護保険料が安いように感じる。

（回答）事務局

- ・多段階化を採用している自治体は多い。
- ・保険料は県内でも低い方である。サービス利用が少ないことも保険料が抑えられている要因の1つである。

(意見) 時田委員

- ・20万都市にしては特別養護老人ホームが少ない。潤生園では今すぐ特養への入所の必要性がある高齢者が60名ほどいるし、在宅介護を受けている要介護度4、5の高齢者も多い。
- ・認知症については要介護度が低くなる傾向がある。認知症の中には問題行動があらわれやすいレビー小体型認知症が25%も占められており、こういう人達をどう支援していくべきかが問題となっている。在宅介護では無理があり、その結果、虐待や介護放棄が発生している。今後は介護だけでなく、医療との連携も求められており、在宅支援を検討していく場が必要かと思える。

(意見) 谷口座長

- ・中国では認知症は年齢が原因であるとして、何も対応をしていない。いずれ、中国は認知症大国になると言われている。

議題3 地域包括ケア推進事業の概要と東富水地区の現況について

オブザーバーより説明

(説明内容)

- ・資料2をもとに「議題3 地域包括ケア推進事業の概要と東富水地区の現況について」を説明。

議題2についての質疑応答

(意見) 木村委員

- ・昨日地区で防災訓練があり、約1,000人が集まった。その中で高齢者の間で何かあったら誰に助けを求めればよいのかという話が出て、「ふれあい処 ひとやすみ」はお金はかかるのか、65歳以上じゃなくても良いのかなどと聞かれ、ぜひ行かせてほしいという意見が出ていた。まだPR不足の感じがする。
- ・足湯を利用した人から、靴下を履かないと寝れなかった人が、靴下無しで寝れるようになったという話も聞いており、このモデル事業をぜひ成功させたいと思っている。
- ・特に女性は、1人で足湯に入るよりも、多くの人と入る方が刺激があるようだ。

(意見) 時田委員

- ・こういう事業は専門家が出しゃばると地域の人達は引き下がってしまう。地域の方が多く利用できるようにしなければならない。

(意見) 木村委員

- ・地域のボランティアグループにもこの施設を実際に見てもらいたい。まだ訪問者が少ないような気がする。

(意見) 時田委員

- ・拠点の多機能化をはかり、平日だけでなく、土日でも運営できるようにしたい。

(質問) 谷口座長

- ・佐野さんは「ふれあい処 ひとやすみ」にはどのくらいの割合で行っているのか。

(回答) オブザーバー

- ・2日に1回ぐらいの割合で行っている。11月からは土日でも運営したいと考えている。

(質問) 谷口座長

- ・スタッフは何人ぐらいいるのか。

(回答) オブザーバー

- ・スタッフは平日に1人配置しており、それ以外は佐野さんか他の人を配置している。さらに足湯の世話をする人が別にいる。

(質問) 島津委員

- ・高齢者は1人でくるのか、家族とくるのか、ボランティアグループはもう動いているのか。

(回答) オブザーバー

- ・1人で来ることが多い。

(回答) 事務局

- ・ボランティアグループについては、まだ決まっていない。社会福祉協議会にボランティアセンターがあるので、そちらを活用したいと考えている。さらに地元にもボランティアを募って活用したいと考えている。

(意見) 木村委員

- ・東富水地区にもボランティアグループがあり、曾我病院や潤生園等のお手伝いをしているが、この事業も取り入れて一つの輪を形成したい。

(意見) 岩崎委員

- ・この事業をどう進めていくか、まだ暗中模索の状況である。11月11日の民児協で「ふれあい処 ひとやすみ」を見学に行こうかと思っている。

(質問) 清水委員

- ・子供は「ふれあい処 ひとやすみ」に来ているのか。

(回答) オブザーバー

- ・子供は来ていない。

(意見) 清水委員

- ・2階を子供たちが利用できるようなになれば、まさにケアタウンのようになる。子育ての拠点にできないかと考えている。2階の空きがもったいない。

(意見) 時田委員

- ・地域の実情がまだ掴めておらず、課題が何かもわかっていない。民生委員は困っているのではないか。
- ・男性の介護者が増えている。情報も少ないし、少しでも負担を軽くできるようにしたいと思う。

(意見) 谷口座長

- ・「ふれあい処 ひとやすみ」は相談受付というより、噂の交差点という存在ではないか。

(意見) オブザーバー

- ・最初は世間話しただけだが、2、3回目あたりから相談をし始める人がいる。

(意見) 木村委員

- ・先日、県警と振り込み詐欺等防止の関係で高齢者宅を訪問したが高齢者は人と話したがっている人が多い。

(意見) 時田委員

- ・大牟田市にはSOSネットワークができており、子供たちの意識もできている。認知症が安心して暮らせるまちになっているので、小田原市の小中学校でもこうした取り組みができると思う。

(意見) オブザーバー

- ・毎週金曜日の打ち合わせでもスクールコミュニティとの連携などの話しが出ている。

(意見) 谷口座長

- ・コミュニティ全体のケアが始まっているのではないか。

議題4 その他

事務局より説明

(説明内容)

- ・次回、第2回の検証委員会は2月の上中旬を予定している。平成22年10月から平成23年1月までの実績をもとにした検証と国への中間発表について検討したいと考えている。

以上